

令和5年度 荒川区立第一日暮里小学校 学校経営方針

校長 猪瀬 賢一

■荒川区教育委員会の目標

○中長期目標

「未来を拓きたくましく生きる子どもを育成する」

○中長期目標を達成していくための方向性

【方向性1】 子ども一人ひとりの可能性を伸ばす

【方向性2】 豊かな感性や創造力を育む

【方向性3】 社会的自立の基礎を培う

○新たな「荒川区学校教育ビジョン」の実現に向けた6本の施策の柱

- (1) 夢につながる主体的な学びを推進する
- (2) こころとからだの健全な育成を図る
- (3) 体験的な学習活動をとおして、よりよい未来社会を築く
- (4) 教師が育つ学校をつくる
- (5) 学校・家庭・地域が強いスクラムを組んで子どもたちを育てる
- (6) 良好な教育環境と体制を整える

1 第一日暮里小学校の教育目標と学校経営方針

「チャレンジする子」

この教育目標達成に向けて取り組み、児童に社会の中で夢をもって生きていく基礎を身に付けさせていく。そのために「失敗をおそれず考えて行動する力を高め、自己肯定感・自己有用感を高め、友達を大切にし、すすんであいさつする学校」を目指す学校像とする。

2 目指す児童像

○もっと高く⇒「主体的に目標を立てて活動する子」

- ①目標達成に向けて、見通しをもち、考えて行動する。
- ②目標達成に向けて、これまでのやり方にとらわれず、自分で考え工夫する。
- ③目標達成に向けて、最後まで粘り強く取り組み、自分で決めたことをやり遂げる。

○もっと広く⇒「主体的に多くの人と関わる子」

- ①積極的に友達と関わり、友達のよいところを見付ける。
- ②感謝する心をもち関わった人に「ありがとう」を伝える。
- ③どうすれば友達が喜んでくれるか考え行動する。

○もっと深く⇒「主体的に深く考えようとする子」

- ①自分の考えとの相違を捉えながら、積極的に友達の話聞き、考えを深める。
- ②意欲的に ICT 機器や図書を活用し、情報を集めて考えを深める。
- ③失敗をおそれず挑戦し、経験を通して考えを深める。

3 教員の指導

- ・単元全体及び1時間の見通しをもたせる指導をする。
- ・発達段階に応じた課題を設定し、個に応じて解決方法を指導・助言する。
- ・自発的に家庭学習に取り組ませる指導をする。
- ・目標に向けた取り組みによって成長したところを見逃さず褒め、満足感をもたせるように指導する。
- ・人権感覚や人権意識を高め、自分も友達を大切にする指導をする。
- ・丁寧なあいさつと言葉遣いが身に付くように指導する。
- ・学級・学年・学校にいる皆と共に生活しているという意識を高める指導をする。
- ・思いやりをもった言動をとらせる指導をする。
- ・単元計画の中に必ず話し合いを取り入れて指導する。
- ・誰もが考えや気持ちを安心して発言できるように指導する。
- ・発達段階に応じた ICT 機器の技能を身に付ける指導をする。
- ・失敗したことを返らせて改善方法を考えさせ、次に生かすよう指導をする。

4 今年度の指導の重点と具体的な取組

(1) 【もっと高く⇒「主体的に目標を立てて活動する子」の育成】

①単元ゴールと学習計画及び1時間の流れを提示し、見通しをもたせた授業の実施（もっと高く①②③）

授業の単元ゴールと単元の学習計画及び1単位時間の学習の流れを示し、児童に見通しをもたせた授業を行い、主体的に学習に取り組ませる。

②発達段階に応じた課題設定をし個に応じた解決方法を考えさせる授業の実施（もっと高く①②③）

学年が上がるに従って、自分たちで学習課題を設定できるようにし、解決方法を自分で考えさせ、主体的に学習を進めさせる。

③情報活用能力向上の推進（もっと高く①②③）

総合的な学習の時間を中心に、個々に課題（目標）を設定し、その課題解決（目標達成）のために ICT 機器を効果的に活用したり、「宿題＋α」を実践し、デジタル教材等を活用した個に応じた家庭学習を推進したりして、情報活用能力の向上を図る。

④読書活動の充実（もっと高く①③）

年間あるいは各学期に本を何冊読むのか目標を立てさせる。読書環境を整えるとともに、

「家読」など様々な読書活動を通じて目標を達成させて自信をもたせる。

⑤英語教育の充実（もっと高く①②）

「日常会話ができる英語」を目標にし、学習した英語を使用して互いの考えや気持ちを伝えあう活動を多く取り入れる。また、目的や場面、状況や相手を明確にしてコミュニケーションを図らせる。

（２）【もっと広く⇒「主体的に多くの人と関わる子」の育成】

①学校行事を生かした指導の充実（もっと広く①）

学校行事を通して、積極的に自他のよさを認めたり、応援したりして、協力・協働する態度を養う。また、主体的に行動する態度を育成する。

②特別支援教育の充実（もっと広く①③）

学級活動や特別な教科 道徳、総合的な学習の時間等で障がいについて取り上げ、理解を促進させる。計画的に特別支援教室の教員や荒川区社会福祉協議会等の関連機関と連携し、障がいについて理解を深めさせ、何ができるのか考え、行動させる。

③礼儀を重んじる教育の推進（もっと広く②③）

儀式的行事や体育集会で、相手を意識した「あいさつ」「傾聴」「感謝」について指導し、学んだことを日常生活で実行させる。

④地域人材活用の推進（もっと広く②）

地域の方々と意図的に関わらせ、身に付けたあいさつや言葉遣いを実践させる場を設ける。

⑤異学年交流の充実（もっと広く①②③）

縦割り班活動を中心に異学年交流を意図的・計画的に実施する。その中で相手を尊重する態度や協働すること、感謝を態度に表すことの大切さを育む。

⑥学級活動の充実（もっと広く③）

よりよい学級生活を送るために、課題を発見し、その解決方法について話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりできるようにさせる。自分にとっても、友達にとってもよいことを決める力を付けさせる。

（３）【もっと深く⇒「主体的に深く考えようとする子」の育成】

①話し合い活動の充実（もっと深く①）

単元計画または1時間の中で、話し合い活動を意図的に取り入れ、考えを広げさせたり、深めさせたりする。

②自己有用感を高める学級経営の推進（もっと深く①）

学級で話し合いながら、一人一役の当番活動や係活動を充実させ、友達役に立っているという自己有用感をもたせる。また、すべての児童に存在感をもたせ、安心して生活できる学級経営をする。

③深く考えて書く学習の充実（もっと深く②③）

ICT 機器や学校図書等を意欲的に活用し、高村光太郎論文や調べる学習コンクール、小論文コンテスト等を通して、深く考えながら書く力を身に付けさせる。

④学校図書館を活用した考えを深める学習の充実（もっと深く②）

年間指導計画を基に、学校司書と連携を図り、全教科を通して学校図書館を効果的に活用し、考えを深める授業を創造する。

⑤考えさせる生活指導の推進（もっと深く③）

生活上のトラブルを自己修正力向上の場と捉え、失敗を振り返らせるとともに、改善策を考えさせ、実行に移させる。

⑥新たな体験学習の充実（もっと深く③）

和楽器演奏体験等の新たなことに挑戦させ、失敗体験を繰り返し、考えを深めさせながら成功に導き、自己肯定感を高めさせる。